

2012 年度 小委員会活動成果報告

(2013 年 2 月 12 日作成)

小委員会名	湿気小委員会		主 査 名：佐藤真奈美 就任年月：2009 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (熱環境運営委員会)		委員長名：佐土原 聡 主 査 名：宿谷 正則
設 置 期 間	2009 年 4 月 ～ 2013 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・2009 年度 これまでの小委員会活動の継続として、2005 年度開催の熱シンポジウム以降の活動成果について整理し、2010 年開催の熱シンポジウムの準備を行った ・2010 年度 熱シンポジウム「人・物・建物にとっての湿気」を 119 名の参加で実施した。2 日間の活発な議論を行った。 ・2011 年度 建物の湿害評価 WG が約 10 年間の WG 活動の成果物として学会規準の出版に着手し出版委員会に移行した (2013 年 1 月刊行)。災害によるエネルギー供給トラブルからの保存収蔵物保護を考えるための見学会を開催した。 ・2012 年度 人と (熱) 湿気環境を健康、快適性、予防医学をキーワードに検討する新規 WG を立ち上げ、既存 WG と共に活発な研究活動を行った。 		
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：有 主査：佐藤 真奈美 (大阪工業大学) 幹事：青木 哲 (岐阜工業高等専門学校) 委員：荒井 良延 (鹿島建設)、岩前 篤 (近畿大学)、小椋 大輔 (京都大学) 尾崎 明仁 (京都府立大学)、坂本 雄三 (建築研究所)、鈴木 大隆 (北海道建築総合研究所)、高田 暁 (神戸大学)、永井 久也 (三重大学)、 銚井 修一 (京都大学)、本間 義規 (岩手県立大学)、水谷 章夫 (名古屋工業大学)、松岡 大介 ((株) ポラス暮らし科学研究所)		
設置 WG (WG 名：目的)	温湿度環境評価WG：熱・湿気・空気連成系のシミュレーションツールを活用した温湿度環境評価に関する研究 吸放湿性効果WG：吸放湿性能を有する建材や生活の中に存在する吸放湿特性を有する素材の防露、防湿、湿度調整に関する利用法の収集、定量的評価に関する研究 湿気と健康WG：人と (熱) 湿気環境を健康維持、予防医学の観点からの研究		
2012 年度予算	190,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価
委員会開催数	3 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) * 能力開発支援事業委員会承認企画	
大会研究集会	

対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 2010年度開催の熱シンポジウムにて2005年以降の湿気研究の整理を行い、今後の湿気研究の広がりを確認できた。 2. 小委員会及びWG活動の成果物として学会規準の刊行が出来た。 3. 快適性や予防医学の観点から人の健康に関する研究を進めることを目的としたWGの立ち上げが出来た。 4. 文化財保護の定量的施策を検討するWGの立ち上げ準備が出来た。
委員会活動の問題点・課題	1. 大学の授業実施時間に対する厳しさから、会議設定が難しくなってきた。 2. 委員会活動成果の情報公開が、委員個人のネットワークツール活用の能力に頼った、負担の大きな方法でしか実現できないため、情報公開に踏み切れない

* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学本委員会用 自己評価欄

2012年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価・最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A	B	C	D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<ul style="list-style-type: none"> ・4年間の活動の中で、学会規準を刊行できたことは評価できる。 ・ダメージファンクションに関するWGが、熱シンポジウム(湿気小委員会主催)で一定の成果を報告し、2010年度で廃止された。現在、この分野での研究が継続できていないことは反省すべき点として挙げられる。しかし、2013年度に文化財保存の観点からダメージファンクションにつながるWGが活動を開始し、今後公開されるであろう成果を大いに期待できる。 ・吸放湿性効果に関するWGは6回/年以上の会議を持ち、研究成果を上げつつある。 ・湿気と健康WGは予防医学の専門家を招く研究会議を持つなど、分野横断的に資料収集を活発に行っている。 ・建築全体の温湿度環境評価WGは、熱・物質移動理論について整理するとともに、予測ソフトの開発および精度検証を行った。なお、建築系と人体系の連成計算による快適性評価など、従来にない先進的なソフトを開発している。 			

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
 - C評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
 - D評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価(シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など)に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。